



1月例会・通常総会



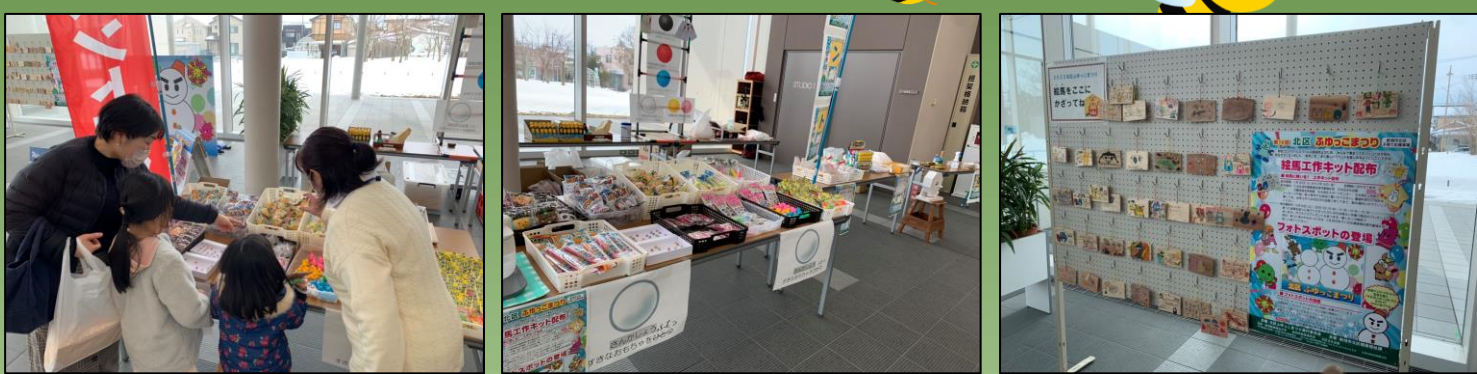
1月24日、1月例会・通常総会を開催いたしました。
新型コロナウイルスの影響によりZOOMを使用してのWEB開催となりました。
犬井理事長より、今年度の意気込みと進むべき方向を示していただき、会として一丸となりJC活動や社業に励んでいこう！という挨拶がありました。
通常総会では、前年度の総決算と締めくくり、今年度の取り決めなどが承認されました。
コロナ禍の状況で、その後の懇親会は設えず、希望者は松潟屋さんの折り詰めをお土産に持ち帰りました。

2月例会



2月21日旅館 長岡屋さんにて2月例会を開催いたしました。
本来であれば2月例会事業として開催する予定であった事業は、新型コロナウイルスの影響により延期となりました。
本例会ではZOOMを使用し、会場に出来ないメンバーのために画面で共有しながら開催されました。
3分間スピーチでは、各委員会の近況報告などを聞くことが出来ました。

2022 ふゆっこまつり



2月19日第14回ふゆっこまつりに参加して参りました。
この日、北区文化会館では感染防止のため、会場を設営しての工作やゲームなどはありませんが、昨年に引き続き、写真パネルの設置や絵馬工作キットを無料で配布しておりました。
「絵馬に願いを！」をコンセプトに、今年の抱負や願いを書き込み、できあがった絵馬が展示されておりました。
当日はこの絵馬を受け取りに来てくれた子供たちが、プレゼントとしてくじを回し、景品を楽しそうに選ぶ姿が見られました。



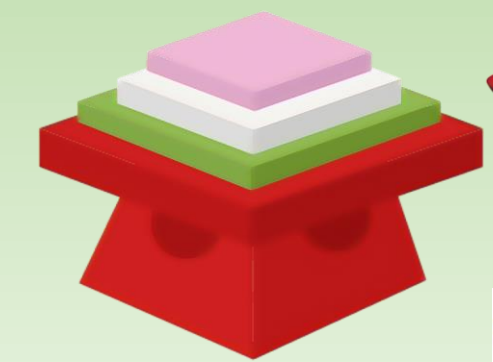
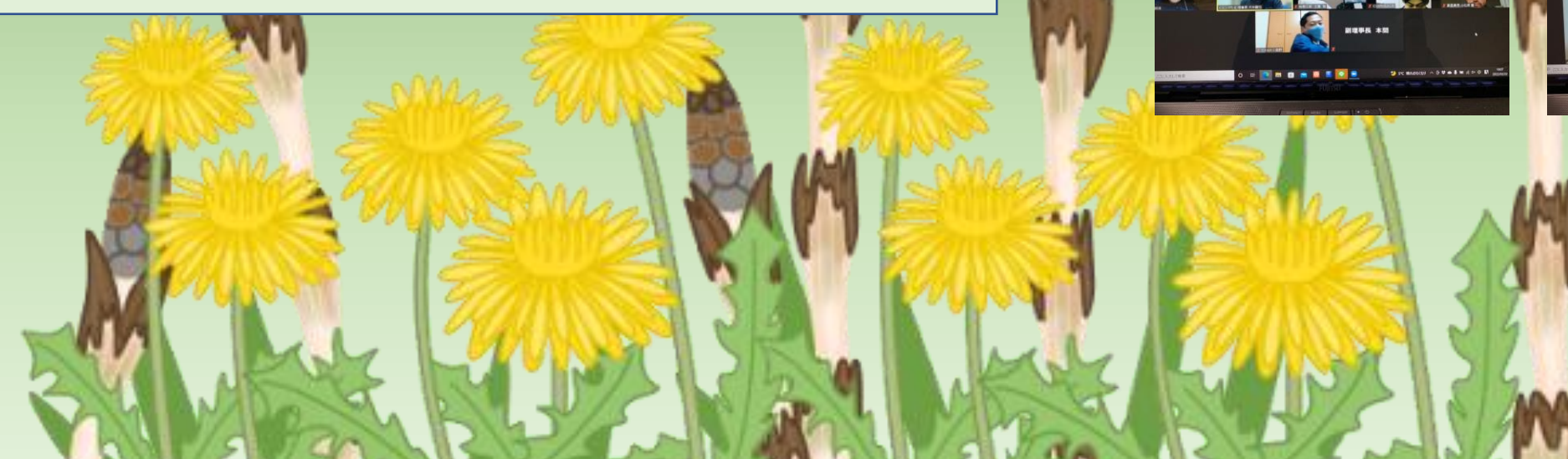
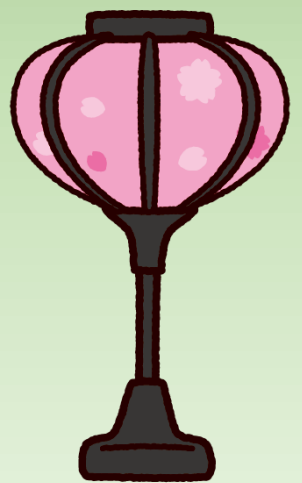
今回の例会でも懇親会は行わず、折り詰めをお土産として持ち帰りました。
久しぶりの参集する機会となり、改めて集まって開催すると言うことの重要性を感じました。



第2回理事会



2月22日、2022年度第2回理事会が開催されました。
第2回理事会も、第1回に引き続きZOOM開催となりました。



松浜まつり

北区あれこれ

ござれや花火

3月



毎年8月24日、25日の2日間に渡って行われるこちらの「松浜稲荷神社 松浜まつり」は、松浜稲荷神社付近で開催される歴史ある祭りです。

15町内が競い合う手作り三車パレードをはじめ、松浜太鼓演奏、盆踊り、かわいらしい稚児舞など、様々な催し物が行われます。

また、稲荷神社境内にて、約60店もの屋台も出店される為、大人から子供まで、毎年大勢の地元の方々に賑わいます。

花火大会も、見ものとなっていますので、1日を通してお楽しみいただけるイベントです。



正確な始まりは定かではありませんが、昭和初期頃から松浜稲荷神社の祭礼で花火が上げられていたそうで、その頃から地域の方々には花火の記憶があるそうです。

その後、神社付近の宅地化に伴い、昭和50年に（協）北新潟商工振興会主催で会場を阿賀野川に移されました。

「阿賀野川ござれや花火」と命名されたのは平成8年です。

会場の川幅が広く、2尺玉を打ち上げることができる恵まれた環境で花火大会が開催されます。

オープニングを含めて、2尺玉を2発打ち上げるのが特徴です。また、河川敷も広いので、観覧者の多くの皆さんが目前で繰り広げられる水中花火の全容を楽しむことができるのも特徴ですね。

過去のプログラムには「プロポーズ花火」なるものもあり、様々なサプライズを駆使して大切な瞬間を大勢の観衆の皆さんと盛り上げます。

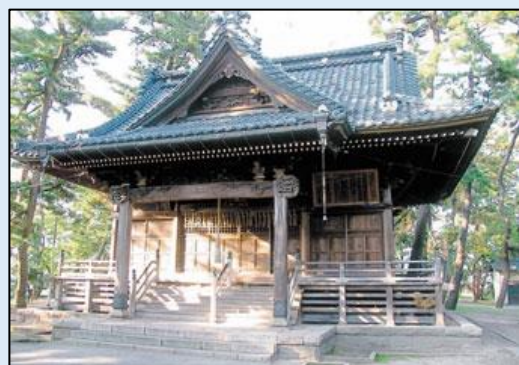
フィナーレの超特大ミュージックスターマイン「花鳥風月」は約4分と長めの作品であり、夏の終わりと秋の始まりを感じさせつつも、人の繋がりや故郷の素晴らしさを実感できる感動の作品と評判です。



松浜太鼓

北新潟商工振興会青年部により「松浜まつり 実行委員会太鼓部」が発足。日本海と阿賀野川の四季をモチーフに故永島鼓山氏により創作された「松浜太鼓」をレパートリーに1976年（昭和51年）正式に産声を上げました。当時のメンバー構成は、北新潟商工振興会青年部有志が中心となり打ち手グループを結成、松浜祭りの核として脚光

を浴び華々しくデビュー。変化に富んだ四季の大自然と、表情豊かな人々の機微を和太鼓演奏でダイナミックに表現し、毎年松浜祭りには欠かすことのできない創作和太鼓芸能「松浜太鼓」として活躍してきました。



松浜稲荷神社は、松浜の高台にある神社です。境内には松が生い茂り、その向こうに阿賀野川を望むことができます。産土神として地域の人々の信仰を集めています。祭神は宇賀御魂命（うかのみたまのみこと）（倉稲魂）（うかのみたま）で、併せて大日靈貴尊（おおひるめむちのみこと）（天照大神）、誉田別尊（ほんだわけのみこと）（応神天皇）を祭っている。もともと東区下山の地にあったといわれ、1731（享保16）年の松ヶ崎掘割の決壊後に下山から松浜の地に移ったと伝わっています。

